

気ままに飛鳥・奈良 -Part 2-



旭川市医師会
かなせき耳鼻咽喉科医院

金 関 延 幸

今年は年男ということで「新春随想」への原稿案内が届いた。ゴールデンウィークなどの休みにはよく飛鳥・奈良方面に遊びに行っている。リュック背負ってスニーカー履いて。以前「旭医だより vol. 147」に「気ままに飛鳥・奈良」という題で拙い文章を載せていただいたが、今回はそれ以降のことを書いてみる。

山の辺の道。いにしへの飛鳥と平城を結ぶ日本最古の道だ。

JR桜井線天理駅を降りてアーケード街を通り抜け、少し行くととうとう森の中に物部氏の総氏神である石上神宮がある。今回ここから日本最古の神社の一つである大神神社まで、この山の辺の道を歩いてみることにした。

車も通らず騒音もない静かな古代の道を二人であれこれ話をしながら歩いていると、日常のストレスも発散されて気持ちがいい。少し行くと前方後円墳の衾田陵がある。継体天皇の皇后、手白香皇女の陵とされている。実際はもっと古いらしい。周りは山裾を切り開いた畑だ。農家のおじさんが麦わら帽子をかぶって黙々と畑に鍬を入れていた。

細い道を少し進んで行くと、道の脇に柿本人麻呂の歌碑が立っている。日本史の教科書にも載っている持統、文武朝の宮廷歌人だ。亡き妻を葬った後に詠んだものらしい。歌碑が周囲の静かな風景に溶け込んでいる。

平坦な道を少し行って右に曲がると黒塚古墳だ。以前大量の三角縁神獣鏡などが出土し、魏から送られた「卑弥呼の鏡」ではないかということで話題になり、新聞などで報道された古墳だ。発掘後古墳は埋め戻され、現在は公園として整備されている。近くに黒塚古墳展示館が設けられている。館内では竪穴式石室が実物大で展示されている。朱色に塗られた木棺が横たわっており、当時の様子がリアルに再現されている。三角縁神獣鏡や刀剣類のレプリカが展示されている。60歳ぐらいのボランティアの方がいて、親切にいろいろ説明してくれた。古代中国との関連の研究で何度も北京に行っているそうだ。

ゆるい坂道を少し上がって行くと、右側に広い樹木畑があった。黄色く皮の厚い実が無数に落ちている。どうも柚子らしい。「もったいないナ～。何かに利用できないんだろうか?」。そのようなことを話しながら歩いて行くと、大きな古墳が見えてきた。景行天皇陵だ。日本書紀や古事記にその武勇が

伝わる日本武尊の父親とされている。この親子にはいろいろな確執があったらしいことを記紀は伝えている。周囲には多くの陪塚が存在するらしいがよく分からなかった。

細い道の所々に掘っ立て小屋の無人販売所がある。近くで採れた野菜や果物が置いてある。ある販売所にミカンが5～6個入ったビニール袋が置いてあった。1袋100円と書いてある。その横の木箱の上にちょこんと座り、姉さんかぶりをした浅黒い顔の木像らしき物体があった。動かない。安かったので100円玉を缶の中に入れてその場を去ろうとした時、突然その木像らしき物体がかすれ声で「おおきに」というような声を発した。びっくりした。本物のおばあさんだった。失礼しました。

田園風景を楽しみながらさらに歩いて行く。ほどなくすると樹林に囲まれた大神神社に到着。伊勢神宮、出雲大社と並ぶ古社の一つとされている。背後にそびえる三輪山がご神体だそうだ。医薬、酒造りの神様としても信仰を集めているとのこと。拝殿の奥にある三輪山を拝し大神神社を後にした。

今回、途中もう一つ行ってみたい所があった。卑弥呼の墓ではないかといわれている箸墓古墳だ。JR巻向駅を降り少し行くと同古墳に着く。巨大な前方後円墳だ。宮内庁で「倭迹迹日百襲姫命」の墓として管理している。しかし研究結果から「魏志倭人伝」に登場する邪馬台国の女王「卑弥呼」の墓ではないかという考古学者も多いそうだ。いつの日か被葬者が特定されたらすごいなと思いながら箸墓を後にした。

今年もよろしくお願いいたします。

